

第59回 日本サインデザイン特別賞 推薦書

特別賞候補

五十嵐威暢氏のサインデザインとパブリックアートに関する活動と功績に対して

対象者

五十嵐威暢氏

概要・推薦理由

1971年五十嵐威暢デザイン事務所を設立。グラフィックデザイナーとして活動し、アクソノメトリック図法によるアルファベット作品は世界的に注目され、多くのクリエイターたちに影響を与える。国内外の数多くのVI計画を手がけ、サイン計画にも深く携わる。まだ日本におけるサインデザインという分野の重要性が浸透していない時代、建築サインや環境グラフィックスを重視しその領域を確立すべく尽力した。代表作にサントリーホール、明治乳業、サミットストア、PARCO PART3などがある。1994年彫刻家へ転身。国内各地のパブリックアート、ストリートファニチャーを制作し、公共空間においてアートの役割が街に活力を与えることを示した。日本に優れた海外事例のデザインを紹介することにも努め「環境グラフィックデザイン」(商店建築社)などをはじめとする多くの書籍の編集にも携わった。また、北海道で太郎吉蔵デザイン会議(2007-2020年)を企画し、従来とは違った視点でのデザイン活動を行い、デザインによる地域活動や社会貢献などに寄与した。

推薦者

公益社団法人日本サインデザイン協会 北海道地区 千葉淑子



1990《サントリー VIデザイン》



五十嵐威暢美術館かぜのびの作品《思い出せない白の伝説》の前で(北海道新十津川町)



1979《金沢市立図書館 サイン計画》(谷口吉郎氏・吉生氏の建築との協働)



1981《日本生命虎ノ門NNビル サイン計画》



1984《MoMAポスターカレンダー》デザイン(～1991)



1981《パルコパート3 ログ》平面のロゴを立体化したサイン

参考URL:<https://takenobuigarashi.jp/category/artwork/>

第59回 日本サインデザイン特別賞 推薦書

五十嵐威暢氏のサインデザインとパブリックアートに関する活動と功績に対して
特別賞候補

1. VI 計画におけるサインデザイン

まだ日本におけるサインデザインという分野が浸透していない時代、建築サインや環境グラフィックスの重要性を唱え、分野を確立すべく普及に貢献した。



1976《サミットストアCI》デザイン



1980《北塩原コミュニティサイン計画》
日本サインデザイン協会 公共部門 最優秀デザイン賞受賞



1980《立正大学熊谷図書館サイン計画》



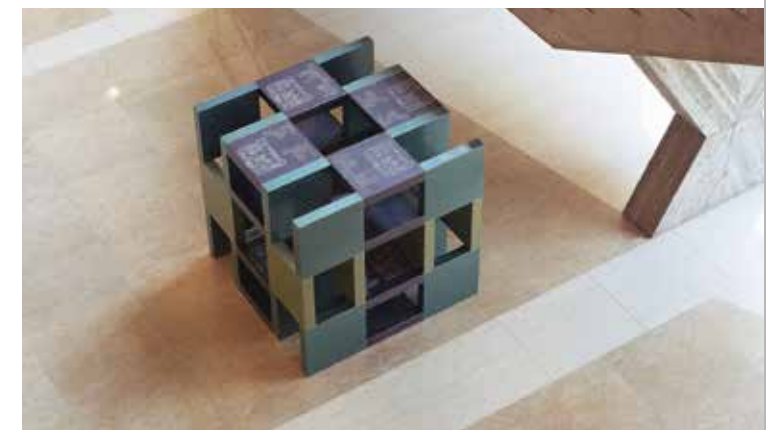
1984《三井銀行 VI計画》



1986年《明治乳業 VI計画》



1985《ホンダ本社ビル サイン計画》



1982《慶應義塾大学図書館サイン計画》

2. 立体文字におけるサイン文字への影響

アクソノメトリック図法によるアルファベット文字は世界的に注目され、グラフィックのみならず立体文字としても展開された。立体アルファベットによるサインは今もなお新鮮で多くの人に刺激を与えている。



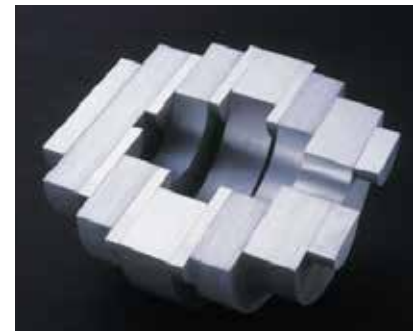
1981《ABS 樹脂 アルファベットA》



1981《ABS 樹脂 アルファベットA》



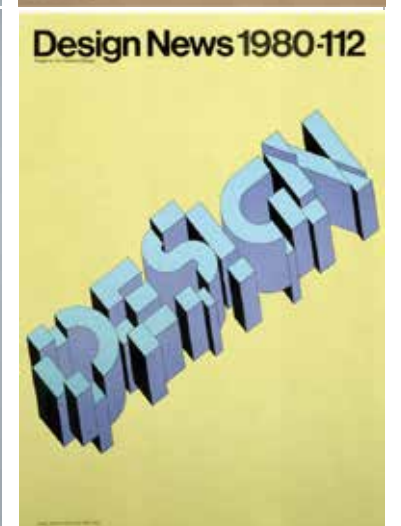
1981《パルコパート3 ロゴ》 平面のロゴを立体化したサイン。ドアノブやネオンサインやショッピングバッグ、広告にも使用された



1986《アーチアルファベットC》



1992《ドムス誌のための彫刻》



2015《母校の滝川第三小学校新校舎のために制作した数字の3の彫刻》
1985年にロンドンに設置した作品の兄弟作品。



1985《3》制作(マイケル・ピーターズ・グループ本社/ロンドン、イギリス)



1981《アルファベット彫刻GO》



1981《ミラーアルファベット T》



1974《ZEN環境設計ロゴ》



1982《CSデザイン賞 トロフィ》デザイン



1980《「デザインニュース」表紙デザイン》
(~1980)》デザイン

3. 公共空間におけるパブリックアート及び ストリートファニチャーへのアプローチ

公共空間において街のシンボルとなるパブリックアートやストリートファニチャーの制作は、木、テラコッタ、金属、石、ステンドグラスなど様々な素材を用いて常に彫刻の可能性を試み新しい角度から提案し続けた。



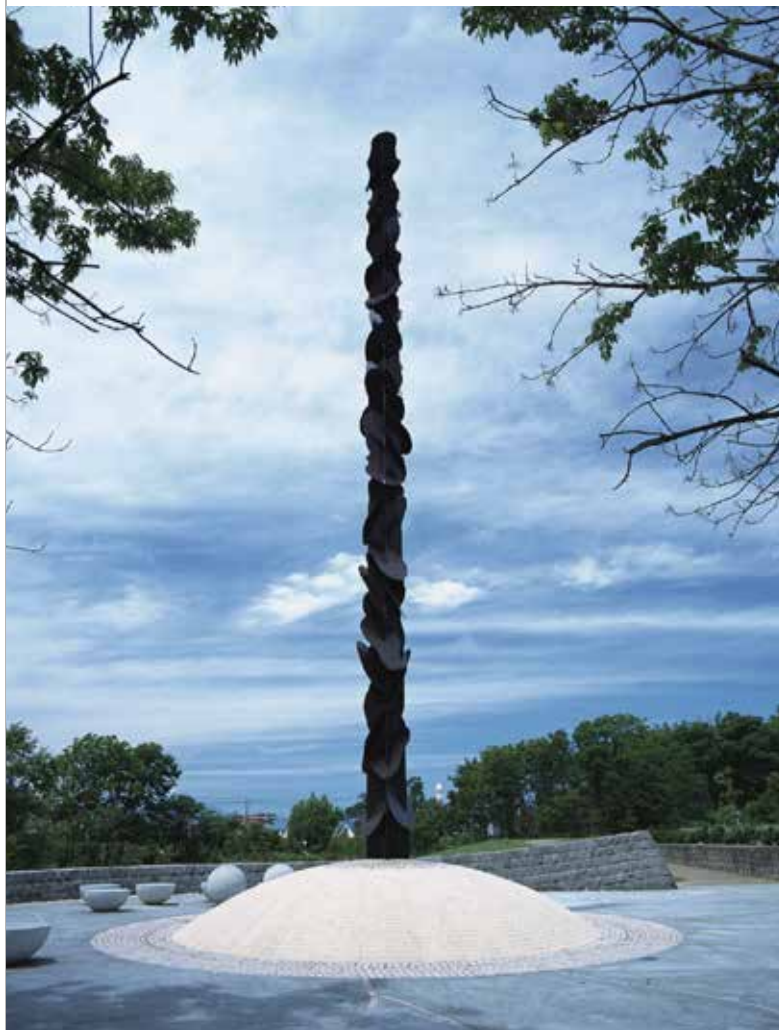
1996《KUMO》制作(麻布十番商店街／東京)



2000《波のリズム》制作(地下鉄大江戸線大門駅／東京)



2000《ベンチ》制作(千葉県市川市)



2004《Dragon Spine》制作(一の坂西公園／北海道滝川市)



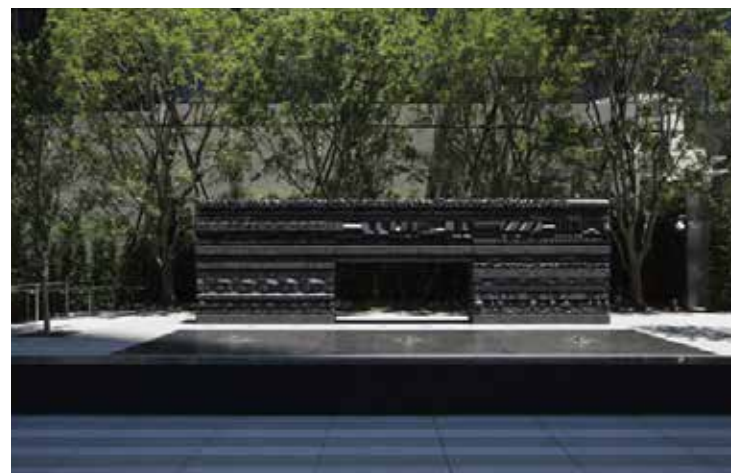
2005《ウォークウェイ》制作(青森県総合芸術パーク)



2007《JRタワー星の大時計クロックデザイン》



2003《ベンチ》制作(東京)



2012《大地(彫刻)、水源(噴水)》制作、周辺の噴水・ベンチも設計(赤坂Kタワー／東京)



2016《ムクムク 水と光と大地に捧げる詩》制作(新函館北斗駅／北海道)



2018《Komorebi》制作(札幌芸術の森美術館)

4. 後進の育成及び、 デザインにおける地域活動と社会貢献への取り組み

後進の育成にも積極的にに関わり、千葉大学、カリフォルニア大学（UCLA）で教職を、多摩美術大学美術学部二部（現、造形表現学部）の創設に参加。我が国初となるコンピューターによるデザイン教育の基礎づくりに参画し、初代デザイン科学科長を務めた。1980年AGI（国際グラフィック連盟）の会員となり、長きに渡り理事を勤める。日本初のAGI総会の開催時に事務局をつとめ、世界のトップデザイナーによる作品展開催に貢献した。2011年多摩美術大学学長就任。2015年多摩美術大学名誉教授就任。

2003年金沢工業大学に作品や資料5000点あまりを寄贈し、理工系の学生の感性教育の拠点となる五十嵐威暢アーカイブ設立に至る。グラフィック及びプロダクトデザインの広く領域を超えた活動は、デザ



滝川第3小学校の総合授業



2023年感性教育の拠点となる《五十嵐威暢アーカイブ》金沢工業大学内にオープン

2024《五十嵐威暢アーカイブサイン計画・衝突防止サイン》CSデザイン賞の準グランプリ受賞

インの分野を超え多大に影響を与えている。
また、Twitterを通じて数多くの言葉を残したことも、ある意味で後進の育成とも言え、今その言葉がいろいろな形で影響を与えつつある。



2003《アートチャレンジ滝川ロゴ》デザイン



太郎吉蔵（北海道滝川市）

太郎吉蔵デザイン会議



たきかわ紙袋ランターン・フェスティバル（北海道滝川市）（2003～）

故郷である北海道滝川市にて五十嵐アート塾を発足。NPO法人アートチャレンジ滝川（のちに、アートチャレンジ太郎吉蔵）を設立。太郎吉蔵デザイン会議（2007年～2020年）を企画し、従来とは異なる視線でデザイン活動も行う。一地方で各界のトップクリエイターによる実験的企画は、「デザインで何ができるか」という命題を探る場となった。また、2003年「たきかわ紙袋ランターン・フェスティバル」を発案。市民参加型のこのイベントは地域の人々が楽しく活動的に暮らせる環境づくりを目指し、雪国のライフスタイルを楽しむことや夜の景観づくりに貢献することを目的とし、今や北海道でも代表的なイベントへと成長し、地域活性化の一翼をになっている。

五十嵐 威暢 Takenobu Igarashi

彫刻家・デザイナー

www.takenobuigarashi.jp

1944年、北海道生まれ。
グラフィック・プロダクトデザイナーとして活動後、1994年以降は本拠をロサンゼルスへ移し、彫刻制作に専念。2004年6月に帰国した。北海道新十津川町のアトリエ・ギャラリー「五十嵐威暢美術館かぜのび」を拠点に2024年まで制作活動を続ける。2023年、金沢工業大学内に「五十嵐威暢アーカイブ」がオープン。北海道新十津川町応援大使、多摩美術大学では学長を経て2015年名誉教授。

2025年2月12日 永眠。80歳。

- 1944 北海道滝川市生まれ
- 1968 多摩美術大学卒業
- 1969 カリフォルニア大学ロサンゼルス校大学院修士課程修了
- 1970 東京にて独立
- 1994 ロサンゼルスに移転彫刻家として活動
- 2005 米国より帰国、三浦半島の秋谷にアトリエを構える
- 2011 多摩美術大学学長就任
- 2015 多摩美術大学名誉教授就任
- 2020 北海道文化賞受賞
- 2023 金沢工業大学内に「五十嵐威暢アーカイブ」がオープン
- 2025 2月12日、永眠。80歳。

代表作にニューヨーク近代美術館のカレンダー、VI計画[カルピス食品工業(株)、明治乳業(株)、サントリー(株)、多摩美術大学、金沢工業大学、王子製紙(株)他]、日本各地の地場産業の技術を駆使したプロダクトデザインやサイン計画[慶応義塾大学図書館、晴海国際客船ターミナル、サントリーホール他]がある。

参考資料

五十嵐威暢美術館かぜのび
<https://takenobuigarashi.jp/kazenobi/>

五十嵐威暢アーカイブ
<https://igarashiarchive.jp/>

竹尾アーカイヴズ
<https://www.takeoarchives.com/archive-collection/2/>